第５期四谷地区協議会　平成２６年度第２回　観光まちづくり実行委員会　会議録				
開催日	平成２６年７月７（月）１４：00～１６：００			
会場	四谷特別出張所　会議室			
出席者	委員	４名	他	出張所職員２名

主なテーマ

１　玉川上水まち歩き振り返り、意見交換
２　9月まち歩きについて

１　玉川上水まち歩き振り返り、意見交換

６月21日に委員のみで歩きながら、どういうところにポイントがあるのか話した。
（田中リーダー作成別紙資料参照。<u>※カッコ内の番号は資料内の番号</u>）

（１）上流を意識して（イメージして）、歩く
出張所ピロティーでビデオ（アニメ）を見る。
許可がもらえれば編集して10分程度に短縮する。
このビデオは、外国人に玉川上水が作られたいきさつを理解してもらうのにも有効である。
（３）構造について話す。
（４）余水吐きに降りるかどうかは状況次第で決定する。階段がないので危険かもしれない。
（５）雨が降ると余水にも圧力がかかり水車がまわった。→仕事（産業）の話をする。井戸から水を出してもらってもいい。近代的な井戸だが、どんな水が出るか触ってもらう。
（６）江戸時代の湯屋は蒸し風呂で、上がり湯だけ湯をかけた。入浴の作法や水の使い方の話をする。
（７）消防署でトイレ休憩をとる。
暗渠について説明する。どのように家庭に水が届いて、どのように使っていたのか、絵を見せながら当時の人の生活を紹介する。
消防博物館展示奥のスペースで話をする。

（８）職人の話をする。どのように石が加工されたか。若葉の赤袢纏の雰囲気が伝わるように説明する。
（１０）懸樋の構造を見ながら、どのように橋に水を渡していたのかを説明する。

【意見、提案】
ア）洗い貼りなどは題材として面白い。
イ）水道博物館で学芸員に指導してもらい、当時の生活と水についての絵を見ながら説明するためのアドバイスを受ける。
ウ）木管の大きさをイメージできるように説明する。中程度の大きさのものは歴史博

物館にある。

エ）水の勢いがどのくらいだったか、イメージできるように話す。取水口は幅十数メートルだが、下流は幅３～４メートル、水深が７～８メートルになる。今の水量、水流からは想像がつかないほど激しい流れだった。羽村の堰を写真で見て、圧縮された後の水の勢いを想像する。

オ）大木戸から半蔵門間を暗渠にしたのはなぜか。欧米との発想の違いについて考える。

カ）江戸の神田上水／玉川上水のうち、暗渠があるのはは玉川上水のみである。理由は不明。

キ）「水道の水で産湯に使った」という、江戸っ子の自慢話は面白い。

ク）費用負担、整備費用の捻出についての話も面白い。幕府が設置し、まちが独自に管理した。

ケ）会所地、井戸端での炊事洗濯の話も面白い。

コ）四谷１～３丁目の、長屋の職業を調査した資料（人別帳）が残っている。
四谷は自治が発達しており、商売敵がいない。大家が入居者を選択する際に、大工が１件、左官屋が１軒、指物師は１軒…というように選別した。隣町に行かず、まちですべて完結したので、つけで支払いをした。

サ）家が狭いので物をあまり置かず、衣服も古着屋で処分したため、古着屋のみ何件もある。

シ）湯屋の変遷についての話も興味深い。一目瞭然の絵があるといい。

ス）ポイント、ポイントでボードを使い説明するとわかりやすく、興味がわきやすい。
→水道博物館に資料を借りられるか確認する。（田中リーダー）

セ）許可を取り、模型・写真をボード化する。

ソ）どのポイントも３分ぐらいで話し、２時間で収まるような解説にする

タ）水道博物館の学芸員への質問書を整理し、次回会議までに聞いてくる。
模型、写真についても相談する。（田中リーダー）

２　９月まち歩きについて

各見学場所に確認後、広報しんじゅくに掲載する。８月にチラシを配布する。

【次回以降の日程】

会議　　８月２７日（水）　１４：００～　四谷特別出張所会議室